

《スローガン》 親子で読書 深める絆～本を読む子は かならず伸びる～

- ▶山形県PTA連合会では、親も子どもと一緒に読書に親しみ、家庭に読書文化の礎を築くために親子読書を推進しています。
- ▶親も子ども共に読書に親しむことで、親子のコミュニケーションを活発にし、子どもも親も心が豊かになり、絆が深まることと思います。
- ▶読書習慣が子どもの学力をアップします。読書習慣は文章を読み解く力と密接に関係しているのです。



子どもが育つ時間はあっという間。けんかをしたり、叱られたり、いろいろあっても、親子で絵本に浸る時間は優しく気持ちを解きほぐしてくれます。…
読み聞かせは「愛の時間」なのです。(学校図書館アドバイザー：五十嵐絹子)

応募ありがとうございました！

令和3度 「親子で読み合いたい一冊」の紹介
《児童・生徒の応募》の中から・・・

【満月珈琲店】

私はこの本を手にとったとき、月夜の星空とおいしそうなパンケーキが表紙にえがかれ興味をひかれました。一人のおばあさんの人生の中でつらい時に満月珈琲店が現れて、三毛猫のマスターが星にちなんだ料理を出してくれて、おばあさんの心に大事な決心のきっかけをあたえてくれます。その料理も表紙と同じようにきれいで、とてもおいしそうでした。私も満月珈琲店のようなお店を見つけられたらいいなと思いました。(小5)

【Oじいさんのチェロ】

この本は、戦争が起きている中で、町の人のために楽器を弾くOじいさんのお話です。私はこの本を読んで、Oじいさんの、みんなが苦しんでいる中楽器を弾き続けるやさしさに感動しました。音楽はみんなに勇気や元気をあたえるんだなあと思いました。(小6)

【星の王子様】

この本は「愛」や「絆」といった普遍的なテーマだからこそその読者によって様々な表情を見せてくれます。『いちばん大切なことは目に見えない』この言葉は何度もかかれています。当たり前のように聞こえますが意外と忘れていることだと思います。子どもはもちろん、大人の人たちも学ぶことができる一冊だからです。(中3)

【あの日をわすれないはるかのひまわり】

しんさいでたくさんの人や物を失ったのはとても悲しいことで、人の心が元気になるのはすごく時間がかかるけどガレキのあとにさいた「はるかのひまわり」がふっこうをねがう人すべての心の花になりました。命の大切さや助け合って生きることの大事さをあらためて思ったからこの本を選びました。(小4)

【ことば遊び教室】

生きていくなかで、言葉は大切です。なにかを細かく伝えるのに使ったり記録したりする時にも使います。しかもその言葉を使って遊ぶこともできます。言葉の後ろに言葉をつなげるしりとりや、にたような言葉を二つ使って文を作ってみんなをわらわせるだじゃれなどがあります。言葉遊びは、考えることが多いので言葉の使い方などの考える力がよくなるのではないかと思います。(小6)

【カエルの楽園】

今の日本をカエルの世界に例え、取り返しのつかないことになると教えている本だと母に聞いたからです。この本を読んで、頭と体、心を鍛え、もっともっと強くなり、日本を守っていきたいと思いました。(小4)

【すっぱりめがね】

すっぱりメガネというメガネをかけると、何もかもがすっぱり見えるのです。たとえば、やさいだってメガネをかけると、レンコンだって穴があいているように見える。車は、エンジン、ラジエーター、サスペンションもすっぱり。みなさんもこの本を見てみてください。(小2)

【天国の犬ものがたり】

いつも読んでる大好きな本をお母さんと読みました。人間と犬のきずながとても感動します。生き物の大切さが分かる一冊でした。命の重要さが伝わるのでもう一度読んでみました。(小5)



【パパ お月様にとって！】
えが、きれいなことと、いっしょうけんめいなおとうさんがかっこよかったからです。(小1)

《親・教師の応募》の中から・・・

【おじいちゃんのごらくごらく】

大好きなおじいちゃんとの日常が描かれており、いつも一緒だと思っていたおじいちゃんが体調をくずして、天国へ行ってしまうお話です。子どもたちにも何度も読んできかせましたが、読んでいるこちらが涙々でした。せつないですが心があたたまり、毎日一緒にいる家族を大切にしたいと思える一冊です。(小3父)

【いつもいっしょに】

あわただしく、コロナ禍でストレス抱える日常ですが、ほっこりするような優しい絵。言葉のない心と心のつながりにいやされます。何気ない毎日の幸せがひよんなことで気付かされる。いろんなことを理由にイラ立ったりするけど、好きな人と一緒に元気に過ごせることが何よりの幸せであると感じる一冊です。(小6母)

【ハチドリのはとしく】

森が火事になった時、ただ逃げ出す動物達に対して、小さな体で一滴ずつ水を運ぶハチドリ。ただあきらめて逃げるのではなく、今の自分に何ができるのかを考え精一杯行う姿を通して今後、壁にぶつかった時思い出してほしいと思います。(小4母)

【にげて さがして】

ヨシタケシンスケさんの本は子どもが小学校のころから読んでいましたが、今の中学生～高校生の時期に読んでほしい本です。大人になり、社会に出ていくために大切にしてほしい事や最後の2ページには親から子への願い、親の想いがつまっています。大人になる我が子に贈りたい本です。(中3母)

【あの日をわすれないはるかのひまわり】

息子が選んだこの本と一緒に読もうと思ったのは、1995年の阪神淡路大震災の記憶を思い出したからです。当時小学生だった私の町にも疎開してきた同級生の女の子がいました。命は助かったけれど、想像を超える体験をして不安な気持ちでいっぱいだったと思います。でもすぐにクラスにとけこんで生活していた気がします。少しずつではあったけど元気をとりもどしつつあったのだと思います。人の心を元気にするのはやっぱり人の心で、はげまし、見守る、そしてこの出来事を忘れない事が大事なのではと思います。(小4母)

【今日は水曜日】

主人公ハルミの家は、スーパーマーケットをしています。毎週水曜日の午後は、老人ホームのお年寄りが買物に来ます。ハルミは新しく買ったアイさんとあいさつをかわし、だんだんと友達になっていく物語です。近所のお年寄りや道で会ったお年寄りの方に笑顔であいさつができると、お年寄りがどんなにうれしい気持ちになるか、相手の心に伝わる気持ちを知ってほしくてこの本を選びました。(小3母)

親子読書活動紹介 《置賜地区》



言葉の力を育み、豊かな心を育てる読書

米沢市立松川小学校

本校では、言葉の力と豊かな心の育成を目指して、学校、地域、家庭が連携し読書活動を展開しています。地域ボランティアによる月に二度の読み聞かせと図書館の整備、長期休業中の親子読書の取組などをおして、本に親しむ子供たちの姿が日常にあふれています。

充実した読み聞かせ活動



児童は、読み聞かせボランティア「ブックワーム」さんによる読み聞かせをとて楽しみにしています。読み聞かせが終わると図書館の整備も。本を読みたくなる、わくわくするような図書館にしてください。



上学年が下学年に読み聞かせ。「どんな本を読んであげようか」「どんな読み方がいいか」相手を思っ
て工夫します。

読書をとおした親子のふれあい

夏休みは、「親子で同じ本を読む」、「親が子に読み聞かせ」、「同じ空間で違う本を読む」、「子供が親に読み聞かせ」・・・など、それぞれの家庭で、それぞれのやり方で親子読書に取り組みました。

「かえるくんのこわい夜」

2年1組 OO OO

マグロが本を読みたいけど、マグロはとまっていられなくて、くるくるおよいでヒラメに本を読みたいことをつたえていたのが、おもしろかったです。これからもたくさん読みたいと思いました。

お父さんより

77ページある本を一人で読んでいました。私もそのあと読んで、二人で感想を言い合いました。「OOがおもしろかった。」「OOが楽しそうだった。」など、一冊の本でたくさん話せて、とても楽しかったです。これからも一緒に本を読んでいきたいです。





親子読書活動紹介《庄内地区》

親と子が本を通して心の交流をはかるPTA活動

鶴岡市立大山小学校

本校では、50年以上前から親子読書に取り組んでいます。本校校舎内にPTA親子読書部が運営する「親子ふれあい館」を設置し、家族で読書を楽しめる、独自の読書活動が続けられてきました。今年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、「回し読み」の活動に限って実施しました。

＜本の貸し出し＞

年12回、土曜日に「親子ふれあい館」を開放し、図書の貸し出しや読み聞かせの活動を行っています。

＜回し読み＞ 各クラス、5、6人の回し読み班をつくり、役員が選本した図書を班ごとに回し読みします。読み終わったら、親子で感想を書き、次の人へ回していきます。

＜親子読書まつり＞ 年に1回、読み聞かせボランティア「ミック隊」や外部指導者、大山小児童の

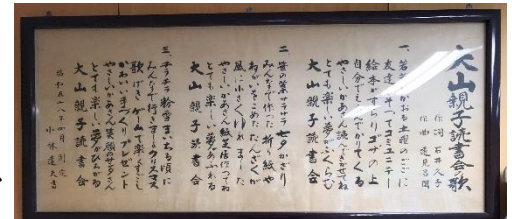


協力を得て、みんなに楽しんでもらえるような読書まつりを企画しています。

＜おたより「ばんげ」の発刊＞

2ヶ月に1回程度、本の紹介や回し読みの感想、読み聞かせや楽しい遊びを紹介しています。

＜大山親子読書の歌＞



親子読書活動紹介《村山地区》



本との出会いを大切に…

上山市立宮川小学校

本校では、本好きな子どもを育てるために、地域のボランティアの皆さんや保護者の協力をいただきながら、様々な読書活動に取り組んでいます。

【読み聞かせ】



高学年読み聞かせ

月に一回、読み聞かせサークル「スプーンの会」の皆さんから、読み聞かせしていただいています。日頃、自分たちでは選ばないような本を読み聞かせてくださるので、子どもたちは新しいお話と出会うことができます。

時には方言も交えながらの語り口に、その世界へぐいぐい引き込まれています。

【親子読書】

夏休みを利用して、毎年親子読書に取り組んでいます。親子が同じ本を読むことで、その本の楽しさを分かち合うことができたり、その一冊が親子にとってますます好きな本になったりしています。

親子読書を行うことで、とっておきの一冊と出会うことができました。



「親子で読み合いたい一冊」ベスト5

過去5年間にわたる応募の中から、親・教師・子どもが推薦してくださった書籍“ベスト5”を紹介합니다。家族で一緒に読み合ってはいかがでしょう。

☆過去5年間の応募総数：6,383件
(H29～R3)



児童・生徒の部

5位



「かみさまにあいたい」

4位



「グレッグのダメ日記」

4位



「はなちゃんのみそ汁」

3位



「さんねんな生き物辞典」

2位



「泣いた赤おに」

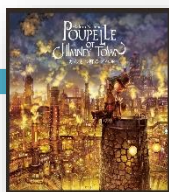
1位



「おしりたんてい」

保護者・教師の部

4位



「えんとつ町のプペル」

4位



「かみさまにあいたい」

3位



「さんねんな生き物辞典」

2位



「はなちゃんのみそ汁」

2位



「おしりたんてい」

1位



「泣いた赤おに」

“シリーズ本”ランキング ベスト5

書籍“ベスト5”には入らなかったものの、シリーズ本としてみると、多くの方から推薦していただいた本があります。大変人気のあるシリーズ本です。

【かいけつゾロリ】

ゾロリはあきらめずにがんばることで大活躍します。あきらめずに続けているとそのうち成功する？お話。

【11ぴきのねこ】

とらねこ大将と10ぴきのノラ猫たちの物語。痛い目にあってもへこたれないねこたちと思いきや、かけない結末が楽しい。

【ルルとララ】

お料理をつくるお話です。お客さんをよんでパーティー。いつもおいしそうなお料理ができます。

- 1位：「かいけつゾロリ」
2位：「おしりたんてい」
3位：「11ぴきのねこ」
4位：「ルルとララ」
5位：「バムとケロ」

【おしりたんてい】

少しおかしな（おならを出す）おしりたんていが、依頼があるとすばやく推理し、事件を解決してまいります。

【バムとケロ】

バムとケロの他にたくさんのお友達が登場するので、読むたびに子どもと新しい発見ができる楽しい一冊です。